

日本語教員養成課程修了生の社会貢献

— M-GTA による分析 —

中 川 良 雄

〈Summary〉

The Graduates of Japanese Teacher Training Course, not only get a job of Japanese Teacher, but take an occupation in various social areas.

If one of the missions of University is to contribute to society, what social contributions do the Training Course or the Graduates play in our society?

As we have already said in the previous papers, the Graduates have won an enough communication skills. They are expected to reduce it to the society as a weapon.

We aims at, in this paper, revealing through an interview analysis to the Graduates about the concrete contents of social contribution or their roles in the society.

The point of view in this paper will be important for the Course existence and as for the Course Curriculum.

はじめに

日本語教員養成課程の修了生は、ただ日本語教員に就くばかりでなく、社会の様々な職域へと就いていく。

では修了生は、課程でどのような資質や能力を自分自身の糧として身に付け、それをいかに社会に還元していつているのだろうか。

前稿（中川 2015b）では、日本語教員養成課程修了生が課程で獲得した能力として、コミュニケーション能力を取り上げ、それが、①異文化コミュニケーション、②対人コミュニケーション、③外国人とのコミュニケーションから構成され、これらの能力の獲得こそが課程の修了生の学びであること、そしてそれらが社会生活に最大限に活かされていることを確かめた。

大学教育の目的が社会のニーズに応えること、すなわち「社会貢献」にあるとするなら、課程の修了生は、コミュニケーション能力を武器としてどんな社会貢献を果たしているのであろうか。

本稿では、前項同様、日本語教員養成課程修了生にインタビュー調査を実施し、その結果を M-GTA (Modified-Grounded Theory Approach) を用いて分析することにより、課程修了生の学びを探る。

大学に課せられた使命の一つとして「社会貢献」があるのなら、課程で身に付けた資質や能力を社会の様々な職域で活用していくことこそが課程修了生の使命であると考えらる。

本稿は、平成 25 年度～平成 27 年度科学研究費補助金研究「日本語教員養成課程修了生の社会貢献とグローバル人材育成に関する構造化研究」（課題番号：25370607，研究代表者：中川良雄）の研究成果の一部公表である。

1 社会貢献

1.1 大学の社会貢献

平成 17 年 1 月の文部科学省中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像」〈中央教育審議会答申〉「第 1 章 新時代の高等教育と社会」では、21 世紀における大学と社会との関係について述べられており、社会貢献が大学の「教育」「研究」に次ぐ「第三の使命」として挙げられている。大学は教育と研究を本来的な使命としているが、同時に、大学に期待される役割も変化しつつあり、現在においては、大学の社会貢献（地域社会・経済社会・国際社会等、広い意味での社会全体の発展への寄与）の重要性が強調されるようになってきている。当然のことながら、教育や研究それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、近年では、国際協力、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献も求められるようになっており、こうした社会貢献の役割を、言わば大学の「第三の使命」としてとらえていくべき時代となっているものと考えられる。

この答申を受け、それぞれの大学においては、国際連携、地域連携や産学共同、高大連携など、可能な社会貢献の中身が検討されている。

お茶の水女子大学学長の羽入佐和子は、次のように述べ、大学の「社会貢献」が議論されるのは、社会からの要請であると考えている。

ここに示されているように、高等教育機関である大学の主たる役割は教育と研究にある。そして人材の育成や研究の推進は、短期的にも長期的にも社会に寄与すると考えられてきた。大学は、毎年多くの人材を社会に輩出し、大学でなされた研究の成果は、技術を革新し、あるいは社会に変革を齎してきた。しかし、近年、「社会貢献」という表現で、あえて大学に社会との直接的な関わりが求められてきたことの意味は、社会の側からの大学に対する視点の転回の要請と解釈できる。換言すれば、大学機能の即自的な理解から、対自的な意識化への転換が求められてきているといえるかもしれない。

社会にとって大学がどのように映り、社会からの要請に大学がどう対応しているのか、社会にとっていかなる機能を果たしているのかを、他者の立場から捉え直す事が求められているのであり、その直接的な表現が「社会貢献」であるといえよう。

我々の関心事である「日本語教育の社会貢献」についても、日本の国際化、日本語学習者の増加、教授スタイルの変化等による、社会的ニーズの変容と関わりが深い。

1.2 日本語教育の社会貢献

大学に課された使命の一つが「社会貢献」であるなら、日本語教育の立場からは、どんな貢献がなされるべきであろうか。

門倉（2011）では、

日本語教育の日本社会への貢献として、日本人のコミュニケーション力の向上に寄与することがあります。地域日本語教室では、そうしたコミュニケーション力が自発的に育っています。そして外国人児童に接する日本人児童にもそれは求められています。

とあり、日本語教育が日本人のコミュニケーション能力の向上に寄与するばかりか、コミュニケーション能力の活用をもって社会貢献が果たせることを述べている。

日本語教員養成の立場からは、コミュニケーション能力を備えた人材の輩出が課題となる。

1.3 社会における日本語教員養成課程修了生の活用

日本語教員養成課程の修了生が、学校という場面にとらわれることなく、社会の様々な日本語教育を必要とする場面で、課程で受容した資質や能力を発揮できる機会が現れつつある。

日本語教員養成課程を修了しても日本語教員に就かない者が実際には大半である。この非日本語教員の活用について、鈴木（2011）は、

日本語教師養成課程で育成する専門性を内省的実践家であることに見定め、修了後に日本語教師とならない者も、「在野の日本語教師」として生態学的リテラシーを生かし、社会に寄与できる。……日本語教育も教育学の一分野であり、教育の持つ人間の援助の本質に目を向ければ、日本語教育専攻者は日本語を用いて他者との交渉、そしてその背後にある社会のあり方への批判的内省を他者と協働的に行っていくことが重要である。……「在野の日本語教師の専門性」とは、生態学的リテラシーを発揮して他者と関わり、自らの日本語使用を通して地域住民の結節点となり、社会を変革していくことである。

と論じ、

「在野の日本語教師」を育てることは、今日の日本語教育が社会に対して可能な貢献の一つではないだろうか。

と結んでいる。

日本語教員養成課程の修了生が、卒業後日本語教員になろうとも、ならずとも、ともに①異文化能力、②コミュニケーション能力、③日本語能力を身につけていることを考えれば、社会の多

様な分野で「在野の」日本語教員として日本の国際化に寄与していける資質と能力を備えていると言ってもよい。

今後の日本語教員養成課程のあり方としては、コミュニケーション能力をはじめとする日本語教育に関する様々な能力を武器として、社会貢献できる人材の育成が求められる。

2 日本語教員養成とコミュニケーション能力

前稿（中川 2015b）では、日本語教員養成課程修了生を対象にコミュニケーションに関するインタビュー調査を実施し、M-GTA（Modified Grounded Theory Approach）を用いてデータを分析した。

調査の結果をおしなべて言えば、日本語教員養成課程修了生が課程での学修で身に付いたと感じるコミュニケーションは、次のように概念化される。

概 念	定 義
異文化コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ■ 異文化を学ぶ環境が整っている
対人コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ■ 話し方がじょうずになる ■ 偏見や先入観をなくす ■ コミュニケーションのうまい人はオーラを出している
外国人とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ■ フォリナートーク ■ 外国語を学ぶことで、外国人に親しみを感じる ■ コミュニケーション・ストラテジー ■ 外国人の相談窓口になれる

日本語教育におけるコミュニケーション能力の獲得は、新たな世界観や価値観の発見につながる。また視野を広げ、自己認識を高めることによって、人間的成長が促される。多文化共生社会に向かいつつある昨今においては、獲得の目指されるべき能力である。

日本語教員養成課程の修了生が、課程で身に付けたコミュニケーション能力を武器として社会貢献を果たしていくかを知ることは、課程の使命を問うと同時に課程のカリキュラム作成や学生募集の指針ともなる。

3 調査方法

3.1 調査協力者

今回分析対象としたのは、次の 20 名（A～T）の調査協力者である。

20 名を対象に 30 分～60 分程度の対面式インタビュー調査を実施し¹⁾、録音したデータ（音声データ）を文字化（文字データ）して使用した。

調査協力者は、次の通りである。

調査協力者 A	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2009 年 3 月卒業 修了後の職業：進学塾事務職員
調査協力者 B	K 大学日本語教員余末井課程（主専攻）2010 年 9 月修了 修了後の職業：日本語学校日本語講を経て、2014 年 9 月から国際交流基金 日本語パートナーズとしてインドネシア勤務 備考：学部時代オランダへ 1 年留学
調査協力者 C	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2013 年 3 月修了 修了後の職業：日本語学校講師
調査協力者 D	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2009 年 3 月修了 修了後の職業：タイ国の大学日本語講師，国内日本語学校講師を経て，現在 高等学校国語講師 備考：学部時代，中国へ 1 年間留学
調査協力者 E	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2009 年 3 月修了 修了後の職業：タイ国大学日本語講師，国際交流基金派遣ベトナム日本語講 師
調査協力者 F	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2008 年 3 月修了 修了後の職業：タイ国にて日本語講師を経て，現在国内の大学，専門学校等 で非常勤講師 備考：専門学校から K 大学へ編入学
調査協力者 G	R 大学日本語教員余末井課程（副専攻）19984 年 3 月修了 修了後の職業：地方公務員 備考：ボランティア日本語教室に参加，そこで知り合った中国人と結婚
調査協力者 H	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2005 年 9 月修了 修了後の職業：日本語学校講師 備考：学部時代にオランダへ 1 年留学
調査協力者 I	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2005 年 3 月修了 修了後の職業：日本語学校事務職員を経て，現在大学事務職員
調査協力者 J	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2005 年 3 月修了 修了後の職業：メキシコ国日本語学校講師を経て，現在 NPO 邦人職員（小 学校での日本語授業担当）
調査協力者 K	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2006 年 3 月修了 修了後の職業：台湾での日本語教師（2 年），東京での会社勤務（4 年半）， ロシアでの日本語教師（2 年）を経て，現在国内日本語学校 にて日本語教師。
調査協力者 L	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2006 年 3 月修了 修了後の職業：メキシコ国日本語学校講師を経て，現在メキシコ国内大学日 本語学科長

調査協力者 M	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2006 年 3 月修了 修了後の職業：タイ国大学日本語講師，日本国内にて店員を経て，現在水産会社社員
調査協力者 N	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2012 年 3 月修了 修了後の職業：浜松市多文化共生事業実行委員会事務局支援教室指導員，独立ぎえい邦人国際協力機構日系社会青年ボランティア日系日本語学校教師
調査協力者 O	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2012 年 3 月修了 修了後の職業：メキシコ国日本語学校講師
調査協力者 P	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2007 年 3 月修了 修了後の職業：ベトナムでの日本語教師，日本での会社勤務を経て，現在日本語学校講師
調査協力者 Q	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2007 年 3 月修了 修了後の職業：メキシコ国日本語学校講師を経て，現在飲食業
調査協力者 R	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2005 年 3 月修了 修了後の職業：病院受付
調査協力者 S	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2005 年 3 月修了 修了後の職業：会社員
調査協力者 T	K 大学日本語教員養成課程（主専攻）2006 年 3 月修了 修了後の職業：タイ国大学での日本語講師を経て，現在，セラピスト（リラクゼーション・マッサージ店を個人で経営）

3.2 調査内容

調査者と調査協力者が対面し，半構造化インタビューを実施した。まず調査の趣旨（個人情報侵害する恐れのないこと，研究以外の目的で使用することのないこと等）を誌面で伝え，了解を得た。

調査内容は，次の通りである。

【インタビュー項目】

- ① 調査に関する質問
- ② 日本語教員養成課程を選んだ理由
- ③ 当初の期待と同じだったか。
- ④ どんな学科目に精出したか。それはなぜか。
- ⑤ なぜ現在の職業を選んだか。
- ⑥ 大学で学んだ学科目が現在の職業に活かされているか。
- ⑦ 課程の修了生は，どんな社会貢献が可能だと思うか。現在どんな社会貢献ができていると思うか。
- ⑧ 課程の修了生は，グローバル人材として活躍できると思うか。
- ⑨ 日本語教員養成課程で学んだことが，今後あなたの生活でどう活かされていくか。

3.3 インタビューの分析方法

本稿では、木下（2003 など）が考案した M-GTA（Modified-Theory Approach）を用いて、インタビュー・データを分析する²⁾。

4 インタビュー・データの分析

本調査は、日本語教員養成課程修了生に期待される「社会貢献」の中身について知ることにあ
る。今回の調査から、日本語教員養成課程の修了生が実際に現在の職業や社会生活において果た
していると感じる社会貢献は、

- ① 外国人とのコミュニケーション
- ② 日本語を教える
- ③ 親善大使となる
- ④ 地域ボランティア

に集約される。

以下にそれぞれについて、詳細に見ていく。

外国人とのコミュニケーション（データ番号①②③⑨）

日本語教員養成課程修了生が、課程で獲得した最も重要な能力の一つに「コミュニケーション能力」があることは、前稿（中川 2015b）で述べた通りである。

まず日本語教員養成課程にいたこと自体が、外国人と接することに物怖じしない資質を育んだと言える。その資質を社会に活かしていない手はないであろう（データ番号①，調査協力者 B）。

そのコミュニケーションは、決して英語や中国語等に依るのではなく、「やさしい日本語」で応じる（データ番号②，調査協力者 B, F）。つまりフォリナー・トークの技法を活かすのも、課程の修了生ならではのである。

課程の修了生が外国との接触の多いことは言うまでもないが、国際結婚をした場合には、共感者として地域でのコミュニケーションが可能となろう（データ番号③，調査協力者 G）。

海外での日本語教師としての滞在経験は、海外を知り、日本を知る者として、外国人とのコミュニケーション・ストラテジーに長けているという点において、企業サポーターやアドバイザーとしての貢献がなされる（データ番号③，調査協力者 I, M）。海外からの帰国後も、企業への就職に有利に働くにちがいない。

調査協力者 Q は、海外での日本語教員経験後、帰国し、一般企業に就職した。本人は目に見えたり、気づいたりしないものの、海外での経験は、帰国後の職業や生活に必ずや活かされているはずである。本人は、自覚と誇りを持ち、コミュニケーション能力を磨いていく努力も必要となろう（データ番号⑨，調査協力者 Q）

日本語を教える（データ番号④⑤）

日本語教員養成課程修了生が課程で獲得した最大の能力は、「日本語を教える」ことであろう。課程修了後、たとえ日本語教員に就かなくとも、「日本語が教えられる」ことは最強の武器となるにちがいない。

今後予想される日本語学習者の増加に備え、専門的に日本語を教える人が必要となる（データ番号④，調査協力者 O）。

ボランティアとして日本語教育能力を活かしていくのが理想的であろう（データ番号④，調査協力者 H）。

外国人集住地域であれば、ますますの活躍が求められる（調査協力者 N）。

日本語教育に疎遠な職に就いた修了生であっても、ボランティアとして日本語を教え、課程で身に付けた能力を社会に還元していこうとするのは実に頼もしい（調査協力者 R）。

ここで大切なのは、ただ日本語を教えるだけではなく、学習者の生活面や心理面に配慮したサポートができるかである（データ番号⑤，調査協力者 C）。

海外の日本人のポジション取りが重要で、国際的視野に立ったうえで、アドバイスできる能力が求められよう（データ番号⑤，調査協力者 O）。

国内外を問わず、日本語学習者には、日本人との接触機会の少ないものもいるので、日本人日本語教員の役割が重要になる（調査協力者 P）。

親善大使になる（データ番号⑥⑦）

日本語教員養成課程修了生は、ただ日本語を教えるだけでなく、日本や日本人について教える任務をも負っていることを上で確認した。

日本語が解せる人を増やすばかりでなく、日本のよき理解者、親日家を増やす責務をも負っている（データ番号⑥，調査協力者 E）。

日本語教員の役割は、いわば親善大使として、学習者と日本との間に橋を架けることである（データ番号⑥，調査協力者 K）。

こうした視座がどこで培われたかと言うと、まぎれもなく日本語教員養成課程という狭い空間において、外国人とともに過ごしたことによるにほかならない（データ番号⑥，調査協力者 I）。

このように考えてくると、日本語教員養成課程修了生こそ、国際平和貢献できるのではないかとと言っても過言ではない。また平和貢献するのは、日本語教員ばかりではなく、日本語を学ぶ学習者の方にも所在がある（データ番号⑥，調査協力者 K）。

学習者の生活支援（データ番号⑦）

生活者が日本で日本語を学ぶのは、決して大学へ進学したいとか、日純粹に日本語を学ぶとかの目的ではない。職を得たり、日本社会への定住を目的としたりしている。そうした人たちの生活を支援するのも、課程修了生の任務となろう（データ番号⑦，調査協力者 J, R, S）。それが

集住地域であれば、なおさら修了生の活躍の舞台は広がるはずである。

対人関係能力（データ番号⑧）

日本語教員養成課程の修了生が、課程で獲得する能力の一つとして、対人コミュニケーション能力があることは、前稿（中川 2015b）でも見たところであるが、そのコミュニケーション能力は、日本語教育場面とは限らず、社会の様々な場面で発揮できるはずである（データ番号⑧、調査協力者 M）。

おわりに

日本語教員養成課程修了生は、課程で身に付けたコミュニケーション能力を武器として、社会のあるゆる職域で社会貢献を果たしている。日本語教員はもとより、一般企業に就いた場合であっても、コミュニケーション能力は、仕事展開においても、社会生活においても最大限に発揮される。

出身地域や職域によっては、日本語教育ボランティアや外国人との接触場面で、大いに能力が活かされることもあるが、修了生には、自分にコミュニケーション能力が付いていること、そしてそれが武器となっていることに気付かずじまいになっていることが多い。修了生には、課程でコミュニケーション能力をはじめとする、異文化能力や日本語教授能力、対人関係能力などの専門性を身に付け、社会貢献が果たせるに足る資質や能力を備えていることに自覚と誇りがほしい。

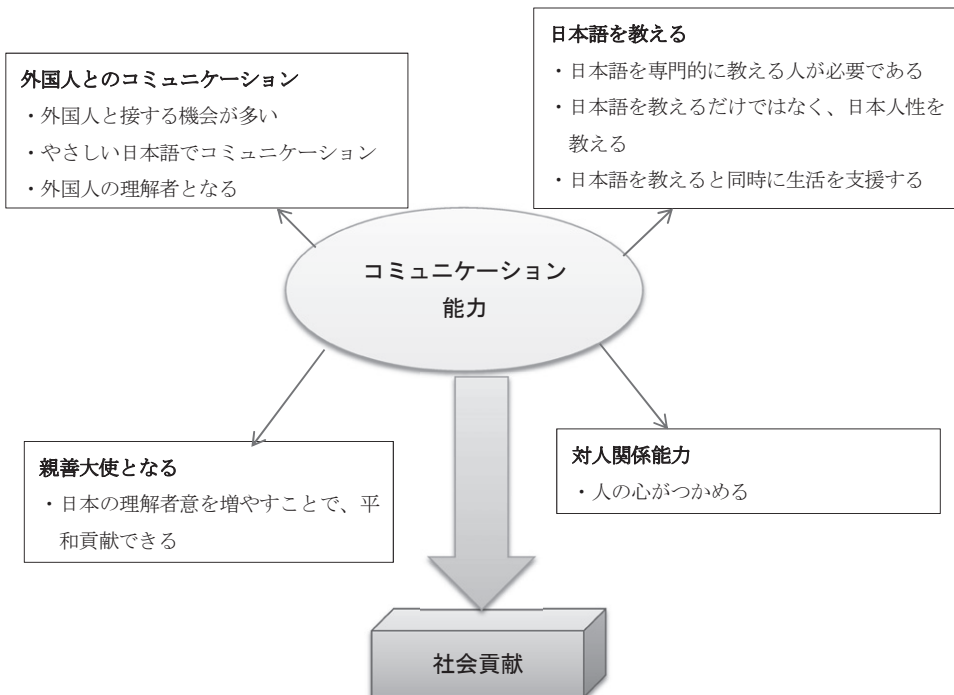
注

- 1) インタビューの一部は、安達万里江氏石井香織氏に協力を依頼した。
- 2) M-GTA については、前稿（中川 2005b）で述べたので、そちらを参照されたい。

参考文献

- 門倉正美（2011）「日本語教育の社会貢献とは？」
http://www.intercultural.jp/seminar/sympo_111123-p1-1.pdf
- 木下康仁（2003a）『グラウンデッド・セオリー・アプローチ 質的実証研究の再生』弘文堂。
———（2003b）『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い』弘文堂。
———（2007a）『ライブ講義 M-GYA 実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて』弘文堂。
———（2007b）「グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）の分析技法」『富山大学看護学会誌』第6巻2号，富山大学，pp.1-10。
- 戈木グレイグセル滋子（2000）『グラウンデッド・セオリー・アプローチ』新曜社。
———（2008）『実践グラウンデッド・セオリー・アプローチ』新曜車。
- 鈴木寿子（2011）『『日本語教師にならない人』にとっても有益な日本語教師養成はどうあるべき

- か——開放的教師養成の一考察——』『リテラリーズ』8, くろしお出版, pp. 30-38.
- (2012) 「共生社会における日本語教師養成のための一考察——言語生態学的内省モデルの提案——」『人文科学研究』No. 8, pp. 15-26.
- 中川良雄 (2007) 「日本語教員が考える日本語コミュニケーション能力——大学の日本語教員の場合——」『研究論叢』京都外国語大学, pp. 158-174.
- (2009) 『「求められる日本語教員に日本語教員養成課程はどう応えるか」に関する総合的研究』（平成18年度～平成20年度科学研究費補助金基盤研究（B））（課題番号：18320084, 研究代表者：中川良雄）研究成果報告書）。
- (2013) 「日本語教員養成課程修了生の日本語教育の受容と変容」『研究論叢』第80号, 京都外国語大学, pp. 151-162。
- (2015a) 「日本語教員養成課程修了生は、グローバル人材になりうるか」『中国日語教学研究会文集』第11号, 大連理工大学出版社, pp. 219-224.
- (2015b) 「日本語教員養成課程修了生の学び：コミュニケーション——M-GTAによる分析——」『研究論叢』第85号, 京都外国語大学, pp. 191-203.
- 文化庁・日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議 (2000) 『日本語教育のための教員養成について』。
- 羽入佐和子「大学の『第三の使命』としての社会貢献」
 (<http://www.zam.go.jp/pdf/00000335.pdf#search=%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%81%AE%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E8%B2%A2%E7%8C%AE>) (2015年8月27日)
- 文部省学術国際局 (1985) 「日本語教員の養成等について」文学教 156号。
- (2005) 「我が国の口頭教育の将来像」〈中央教育審議会 答申〉
 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1335581.htm))
 (2015年8月27日)



【付 ワークシート】

データ番号	①
概念名	外国人とのコミュニケーション (1) 1
定義	外国人と接する機会が多い
バリエーション (具体例)	<p>調査者：ボランティアってというのは。 調査協力者：町の中、地域の日本語教室とか、あとはまー、語学ができる人は、通訳・案内みたいのもできるでしょうし、あとはまー、教員とか、学校の教員とかになった人は、まー、そういう児童とか生徒とかのフォローもできるでしょうし、会社に入っても外国人の人がいたら、気軽にサポートできる立場にはなれると思うので、どの社会にいても、はい、えっと、外国人、身近にいる外国人を理解できる人間になれると思います。 調査者：一般の人よりも外国人に接する機会も多かったらうし、今後も接していく。外国人をこれからたくさん受け入れなければならないのですね。人付き合いがうまくなっているのかもしれないですね。 調査協力者：そうですね。ほかの大学に行っていた人よりも外国人と接していた機会は多いと思いますし、(調査協力者B)</p>
理論的メモ	外国人と接することに物怖じしない。

データ番号	②
概念名	外国人とのコミュニケーション (2)
定義	やさしい日本語でコミュニケーションできる
バリエーション (具体例)	<p>調査協力者：(前略)日本語学科ですので、やさしい日本語を話せる人も多から、英語でのフォローというより、やっぱり日本にいるので、やさしい日本語でのフォローとか、そういう独特の。 調査者：入学当初は、英語を勉強したかったということだったと思うんですけど、今になって、やさしい日本語のほうがいいんだというふうに変わってきたんですね。(調査協力者B)</p> <p>調査者：そういうことがあるかもしれませんね。Fさん自身は、社会貢献していますか。 調査協力者：貢献できているんでしょうか。 調査者：自分では目に見えないかもしれないけれど。 調査協力者：そうですね。ときどき外で外国の人に質問、普通に町ですれ違った外国の人に質問された時の自分の返し方が日本人じゃないなと思うことがありますけれども。 調査者：どう返すんですか。やさしい。 (中略) 調査者：やさしい日本語で伝えることができる。 調査協力者：つい話してしまうことがありますね。 ちゅさ者：それが日本語教師の経験知というか、体が反応しているんですね。 調査協力者：ついこう出てしまった、変な日本語しゃべってしまったと思いながら。(調査協力者F)</p>
理論的メモ	自分自身が確実に変化している。

データ番号	③
概念名	外国人とのコミュニケーション (3)
定義	外国人のよき理解者となる
バリエーション (具体例)	<p>調査協力者：(前略) あの一、私夫中国人なので、彼のいろんな質問には、今でも日本語の質問とか、そういうのにはよく質問されたり、彼を通じて、周りの中国とかベトナムとか、日本語を話さない人たちの質問責めにはよく遣います。</p> <p>調査者：それにちゃんと答えられる。</p> <p>調査協力者：はい。</p> <p>調査者：それに学んだことが役に立っている。</p> <p>調査協力者：すぐ思いつくのはそういうことですかね。お母さん同士とかでも、よそから来られて、中国人の妻とかで来られた、日本人の妻ですか、で来られた人とか、あの一、また全然別のタイとか、いろんな国の人とかで、一定の仲良くなれても、一段踏み込んでとかいうときに、あの一、なんかちょっと、お互いどう付き合っているのか遠慮してしまうところがあったりするのを、中国の人は結構親しく話しかけてくれますね。そんな時にいろんな相談事とか聞いたりとか、日本ではどうなのかという話をきっかけ、糸口にはよく。</p> <p>調査者：そういうコミュニケーションがうまくなってるかもしれない。(調査協力者 G)</p> <p>調査者：じゃ、日本語教員を今しているんですけども、社会貢献ができると思いますか。</p> <p>調査協力者：すごい貢献していると思います。</p> <p>調査者：どんなふうか。</p> <p>調査協力者：例えば今メキシコの、メキシコにです、日系企業が入って来てるんですが、どんどんどんどん入って来て、その一、メキシコを起点として、アメリカに行く、もしくは南米に行くというので入ってきているんですけど、そこで今日本人がどんどん入ってくる中で、その一、メキシコ人と日本人の間に入って、日本語を教えるかわら通訳をしているんですけども、日本語教師ということだけではなく、文化を知っている人間として。</p> <p>調査者：企業文化。日本の企業文化も知っているし、メキシコの文化も知っている。</p> <p>調査協力者：知っているんで、こういう考え方をメキシコではするけれども、日本ではちょっと違うよねっていうことを伝えることもできるかなと思います。(教唆協力者 L)</p> <p>調査者：今の仕事ではどうでしょうか。なにか貢献ができるでしょうか。</p> <p>調査協力者：どちらかというと、タイに工場があるので。</p> <p>調査者：あ、そうですか。</p> <p>調査協力者：タイで身に付けたタイ語が活かされているってところです。あとは、タイ人の性質が分かっているので、工場の中でどうマネージメントしていいとかか分かるというところでは、会社に認められて入ったと言うところです。(調査協力者 M)</p>
理論的メモ	日本と外国とのよき理解者として

データ番号	④
概念名	日本語を教える (1)
定義	日本語の教えられる人が求められていおる
バリエーション (具体例)	調査協力者：貢献できているかぜんぜん分からないんですが、これからも国際化の波がどんどんどんどん大きくなって、日本に観光目的ではなくて語学留学の目的で来る学生が増えると思いますし、日本語の需要というの、高くなっていくというか、来てほしいんですが、そういう中で言うと、やっぱり日本語教育の専門の知識を有して、大学でちゃんとコースで学んで修了して、日本語学校で教える、教えられるという人がいないと、(後略) (調査協力者 O)
	調査協力者：(前略) 大学時代にやりましたが、ボランティアで地域の日本語ボランティアに行くということとかが、すごいいいかなとは思いますが、教える場所とか、やる内容にもよると思います。 (調査協力者 H)
	調査者：どんな貢献ができるでしょうか。 調査協力者：えーと、例えば、あの一、日本語教えるっていう意味では、ボランティアで教えようと思えば、あの一、教えることもできると思いますし、そうですね、…… (調査協力者 J)
	調査協力者：そうですね。私はやっぱり自分の地域を考慮してしまうので、私の地域は、でもボランティアとしての日本語教師の方ばかりで、職業としては成り立っていないですね。まあ自分がやっている職業の休みの日にボランティア活動ができるし、まあ、語学が堪能な方は、別のこともできるし。 調査者：はあはあ、いろんな方法で。日本語教育というのはもちろん貢献していける。社会に貢献してる、浜松では。(調査協力者 N)
	調査協力者：私自身に関しては社会貢献ができるとは、あんまり思えないですけどー、そうですね、養成課程を終えた人ができること、むずかしいなあ。うーん。でも、ほんとにちっちゃいことですけど、あの一あたし引越しをする前に一、半年間だけしか実際できなかったんですけど、まあ卒業してからだいぶ経ったけど、やっぱりちょっと興味があって、しょうがっ、こう、夜の小学校で、まあボランティアをすることができ、でまあ、そこに住んでいる外国の人の、からって教えるってわけではなくて、まあもちろんしゃべれる人しゃべれない人はいましたけど、やっぱりその話すきっかけを持つ場だったので、そういうことができ、できるっていうか。まあそこは日本語教員養成課程をしてる人しかだめというかそんな縛りは全然なかったんですけど、けど、そのもっかい、あの、何て言うんだろう、その、外国の人とか、日本語を勉強したいっていう人のためになることができるんじゃないかな、とか。 調査者：具体的に、どんな助けができたと思いましたか。その時に。 調査協力者：そうですね、あの一、他の人と比べたことはない、そこにボランティアにいた人と比べたことがないからわからないんですけど、けどちょっと言い方はちがうよって、発音、イントネーションがちがうよとか、そこは間違ってるよというふうにご注意した時に、あ、今まで言われなかった、誰も言ってくれなかった、って言って喜んでくれたこととかがあったから。そこが、よかったかなって思う。(調査協力者 R)
理論的メモ	日本語の教えられる人が、地域社会で求められている。

データ番号	⑤
概念名	日本語を教える (2)
定義	日本語を教えるだけではなく、日本人性を教える
バリエーション (具体例)	<p>調査協力者：(前略)日本語ってこういうものだっていう知識もそうですけど、日本語を通して、先生が一人ひとり人間性とかも学生に教えていく、特に日本に住みたい日本で働きたいと思っている学生だったら、自分の国ではこうだったけれども、日本ではこうだということを、押し付けではないけれども教えていかななくてはならない。学生が日本の生活に馴染めなくて、辛くなったりというのも、今の学生でもちらほらと耳にするので、日本語教員養成課程を出て日本語学校で働いている人の重要性は高いと思います。</p> <p>調査者：日本語だけじゃなくて、日本語をじょうずに教えるだけじゃなくて、彼らの生活面のアドバイスとか心理面に配慮したこととかできる。</p> <p>調査協力者：そちらのほうが重要なんじゃないかなと思います。(調査協力者 C)</p> <p>調査協力者：日本国内のことはよく分からないのですが、海外であれば、特にメキシコは日本へ行くのがすごく高いので、なかなか行ける人が少ないんですけど、でも日本人がメキシコへ行って、日本というものを伝えることもできますし、日本語を通して文化であったり、その日本にいるものを伝えられるんじゃないかな、今でもそう思っています。もっとすごくかけ離れている文化なんで、すごく考え方がいつのものなの、こんなのもうないよとか、暗黙だけの知識とか、なので、生の日本人のそういう話を伝えられたらもっといいなと思います。</p> <p>調査者：じゃ、日本人の役割って、すごく大きいですね。</p> <p>調査協力者：そうです。やっぱり主観的でもいけないし、客観視しすぎてもいけないし、いかに中立的な立場で話すかでもすごく大切です。文化とか歴史とか、とにかく日本寄りになりすぎても偏っているし、メキシコ人に近すぎてもそれも偏っているし、そういうところでは日本人のポジションって重要なんじゃないかなと思います。(調査協力者 O)</p> <p>調査協力者：日本語教師として？</p> <p>調査者：うん、そうですね。</p> <p>調査協力者：なんだろうね。日本語教師として……。う～ん、まあ私が接するのは日本語学校に来て、主に進学したいと思ってる留学生だけど、結構日本人とのふれあいが少ない学生も多いから、そういう中では留学生にとっては数少ない、先生だけど日本人と接する機会に私になってるかなってのは思う。あと、住んでても例えば、大阪のこと全然知らない学生とかもいるから、こういうのもあるんだよ、こういう所もあるんだよとか。(調査協力者 P)</p>
理論的メモ	日本人教師の役割って、何だろう？

データ番号	⑥
概念名	親善大使となる
定義	日本の理解者を増やすことで、平和貢献できる
バリエーション (具体例)	<p>調査協力者：私は日本ではなくて、海外で働いてきたので、私が接してきた学生や生徒は、そんなにレベルの高い人はいなかったんですね。ベトナムだったら、高校生だったので、その子たちが日本語がすごく流暢になって、活躍する姿を別に私は望んではいなくて、彼らが大人になったときに、少しでも日本語や日本に愛着を持っててくれれば、日本との関係がよくなっていくんじゃないかなあと思ってます。</p> <p>調査者：いわば親善大使は：そうですね。</p> <p>調査者：その意味で社会貢献できるのではないかな。</p> <p>調査協力者：そうですね。微々たるものですけど。(調査協力者 E)</p> <p>調査協力者：そうですね、あの一、日本人が日本語を学ぶ、日本を学ぶということで、ある種、自分の国のことを外から見るといえるか、それを発信できるチャンスもきつと、あの一、例えば外国語大学に行かなかった、例えば南山とか、外国語に関係のない学部の方からしたら、外大生ってきつと世界に対する、なんでしょう、壁があまり高くないというか、わりとフラットにフランクにいるんな外国の人と接することが苦ではないと思うので、日本語教師の職に就いていなかったとしても、4年間勉強したことで、例えばコミュニケーション取ったときに、外国から見えてるちょっとした誤解とか、古い知識とかを、まあ、かみ砕いてじゃあ言うことはできるのかなとは思っています。</p> <p>調査者：なるほどね。外大という狭い空間の中で、外国人と接する機会って、非常に多いですね。</p> <p>調査協力者：そうですね。</p> <p>調査者：自然とそういう目が身についたといえるかな。(調査協力者 I)</p> <p>調査協力者：社会貢献、私は日本語教師が社会貢献する職業だと思っています。日本の社会だけじゃなくて、世界で社会貢献できるとしています。で、給料が高い安いじゃないし、意外と世界につながるとしています。大学を出て、日本語の先生になるってことは、社会貢献につながるとしています。</p> <p>調査者：Kさん自身は、今社会貢献している。</p> <p>調査協力者：している。していると思います。</p> <p>調査者：具体的な例があれば、何か教えてください。</p> <p>調査協力者：具体的な例。例えば、私が今学生たちに日本語を教えて、その学生が母国に帰って、日本の文化を伝えるだとか、日本のその国の懸け橋になるとしたら、私たちは橋を作る仕事をしているとすることができますし、私はロシアにいて、ロシアには日本人がかなり少なかったんで、何というか、花に水をやりに行くというか、そういうふうな、世界に対して貢献している心が、少しですけども、あるかな、繋がっていく、これからも、よくして行けるとは思います。(調査協力者 K)</p>
理論的メモ	日本語教師としての働き甲斐があるのか。

データ番号	⑦
概念名	学習者の生活支援
定義	日本語を教えると同時に生活を教える
バリエーション (具体例)	<p>調査者：仕事ではどういう貢献をしていると思いますか。 調査協力者：仕事ですか。 調査者：はい。 調査協力者：大人も子供も、私が教えている外国人ていうのは、どうしても仕事をしていたりだとか、日本の学校に行っていたりとかいう、日本語学ぶために日本へ来たという人たちではないので、そういった人たちが社会で、日本社会で生きていくために、一つツールとして日本語を身に付けたほうが良いというところで、日本社会に、はい、もちろん彼らが自身のためになると思うんですけども、彼らは日本語を覚えて、そこで、そうですね、ちゃんと職を得て生きていけるということは、生活保護をもらわない外国人が増えているとかということでは、はい。 調査者：そのようなサバイバルというかな、日本社会への定住能力を身に付けさせていく、ということかな。 調査協力者：はい、そうさせるおしいと思いますけど。 調査者：そういう意味では社会に貢献していると言えるのかな。 調査協力者：おこがましいですかね。(調査協力者J)</p> <p>調査協力者：うーん。日本語教員、なので、ま、実際私はやってないので、ま、その、あの一、違う職業にいて、言えることなんですけど、ま、海外から、あの、たくさんの人達が来ている、勉強しに来たり、働きに来ている中で、やはり言葉しゃべれないと仕事ができないので、その人たちの手助けをしてるっていうのももちろんありますし、あと、今、ま、日本の中でも、その海外の人達の働き手が欲しいと思っている会社もたくさんあるので、その人達の、手助けも、していると思います。(調査協力者R)</p> <p>調査協力者：社会貢献ねー。外国の、なに、方たちも、ねー、たくさん日本に、日本で生活とか、ねー、されるようになってるので、田舎の方にも、けっこう、ちらほら、外国の在住の方が増えているので、そういう面で、ま、私は地域のボランティアで参加してますけど、そういうボランティアであったり、ただ単に生活する中で、そういう方たちに、こう、声を、かけたり、なにかそういうのが、他の人達、その、あまり外国人と接したことがない人達よりは、気軽に、手を差し伸べたり、こう助けてあげたり、そういうことができやすいんじゃないかなあ、と、思います。(調査協力者S)</p>
理論的メモ	地域ボランティアは、日本語を教えるだけでなく、生活支援も行う。

データ番号	⑧
概念名	対人関係能力
定義	人の心がつかめる
バリエーション (具体例)	<p>調査協力者：えっと、今だと、老人ホームとか、医療系とかで、実習生を受け入れて、実習生と実際に関わっていきますよね。やっぱりそこで日本語の指導とか接し方とかの分かっている人は非常に少ないと思うので、というところでああ、地域を通してとか、知り合いを通してとかでも、そういうところで、養成課程を卒業した私たちは、他の人より、何で困っているとかが分かると思うので、そういう面での貢献ができるかなと思います。(調査協力者M)</p>
理論的メモ	対人コミュニケーションがうまい。

データ番号	⑨
概念名	会社の利益津級のために貢献する、これも社会貢献か？
定義	個人の利益よりも会社の利益を追求する
バリエーション (具体例)	<p>調査者：現在、実際に社会貢献ができていますか。</p> <p>調査協力者：あんまり思っていないですね。</p> <p>調査者：思っていない。</p> <p>調査協力者：はい。</p> <p>調査者：それはどうして思っていないですか。</p> <p>調査協力者：社会貢献……。今はもう完全に会社の利益のためにやってることなので、まあそれで、商品が一人でも多くの人に手に取ってもらえて幸せを感じてもらえているなら、それは社会貢献の一つかなとは思いますが……。そんなになんか一つ一つの行動が、あっこれで社会貢献しているんだとはあんまり思ったことないし、貢献してるなとは思ってはいないです。(調査協力者 Q)</p>
理論的メモ	会社でどんな能力が発揮できる k。

